

猛禽野鳥「ツミ（タカ科）」の写真

2024/8/23 YA

とても魅せられる写真を友達が送ってくれました。自家の窓柵にとまっている精悍な野鳥ツミ（タカ科）の写真です。皆さんにもご紹介致します。友達は、入間川の豊水橋の近くの団地に住んでいます。近くの公園では、ツミが毎年繁殖している様です。

下の写真1枚目の柵下部に入り込んでいる暗褐色の鳥は、巣立ちしたばかりの幼鳥（多分）です。2枚目は柵トップ部の横手すりにとまっている親鳥（メス）です。小鳥らしきものを口にくわえています。3枚目は、明褐色に映っていますが翼を開いた同じ親鳥です。翼を開き、かぎ爪の片足で捕食物をしっかりと掴み押さえ、とても精悍な姿ですね。翼開長は、柵格子間隔から50cmほどと推測されます。4枚目は、親鳥が幼鳥に餌を与えようとしているのでしょうか。

私たちの近くにこんな猛禽鳥が住んでいるなんて、ここはなんと自然豊かなまちなのではないでしょうか。大事にしたいものです。



(1) 巣立ちしたばかりの幼鳥（多分）



(2) 親鳥（メス）



(3) 親鳥（メス）：翼開長約50cm



(4) 親鳥（メス）と幼鳥

参考：インターネットのWikipedia 記事「ツミ」からの抜粋

ツミ（雀鷹、雀鷓）は、タカ目タカ科ハイタカ属に分類される猛禽類。夏季に中華人民共和国東部や日本、朝鮮半島で繁殖し、冬季は中華人民共和国南部や東南アジアに南下して越冬する。日本では基亜種が温暖な地域では周年生息（留鳥）するが、寒冷地では冬季に南下（夏鳥）することもある。

形態

全長オス 27cm、メス 30cm。翼開長 50-63cm。体重 75-160g。漢字表記の雀は「小さい」の意で、和名はスズメタカが変化したメスに対しての呼称に由来する。同じ属のハイタカ（鷓・灰鷹）より小さくハト大前後で、ハイタカほど眉班が目立たない。下面は白い羽毛で覆われる。眼の周囲は黄色。

幼鳥は上面が暗褐色、下面が淡褐色の羽毛で覆われる。胸部に縦縞、腹部にハート状、体側面に横縞状の暗褐色の斑紋が入る。虹彩は緑褐色。オスの成鳥は、上面は青味がかかった灰色、胸部から体側面はオレンジ色の羽毛で覆われる。虹彩は赤褐色。メスの成鳥は上面は灰褐色、下面には暗褐色の横縞が入る。虹彩は黄色。

生態

平地から山地の森林に生息する。単独もしくはペアで生活する。食性は動物食で、主に小型鳥類を食べるが、爬虫類、小形哺乳類、昆虫なども食べる。漢字表記の雀はスズメも含めた小型の鳥類を捕食することにも由来し、英名（sparrow=スズメ）と同義。

繁殖形態は卵生。繁殖期には縄張りを形成する。針葉樹の樹上に木の枝を組み合わせた巣を作り、4-6月に1回に2-5個の卵を産む。抱卵期間は約30日。雛は孵化から約30日で巣立つ。

本来ツミは、巣の半径50m以内に侵入するカラスなどの捕食者に対し防衛行動を行うことから、卵や雛の捕食を避けるためにオナガがツミの巣の周囲で繁殖することが多かった。だが近年ではカラスの個体数が増加し、ツミが防ぎきれなくなったことからカラスに対しあまり防衛行動を行わなくなり、オナガがツミを頼りにすることが減ってきている。

人間との関係

鷹狩りにおいては古くからオスをエッサイ（悦哉）と呼称することもある。